

たくさんの人々と出会い 支えられてきました



1997年、定数1の県議補欠選挙で初当選した丸山さん。以後14年間、みなさんの声を県議会に届けるため全力を尽くしてきました。そんな丸山さんの歩んできた道を紹介します。

やさしい人たちに囲まれ 育った少年時代

丸山さんは1955年、小学校の先生をしていた両親のもとに生まれ、

父親の実家がある立川市で育ちました。

当時は、ベトナム戦争の真つただ中で「立川市には米軍基地があり、通っていた立川第一小学校の真上を軍用機が飛んでいた」「父は、全国で盛り上がったいた安保闘争などに走りまわり、家はみんなの『たまり場』。母は、その後ろで家を支えていた」と丸山さんは話します。

丸山少年は、頻繁に訪れる父の友人に囲まれ、一緒に旅行や集会に連れて行ってもらうなど、たくさんの人たちからかわいがられました。

高校入学。サッカー部と 平和への思い…

都立武蔵高校に入学した丸山さ

んは、サッカー部に入り、レギュラーとして活躍します。「当時の武蔵高校はけっこう強く、都大会ベスト8まで進みました。惜しくもベスト4をかけた試合で、強豪『帝京高校』に破れ、テレビ放映を逃した…」と、なつかしい

思い出を振り返ります。

当時は、東大闘争など学生運動が盛んでした。高校生たちも影響を受け、丸山さんも友だちとよく語り合いました。2年生の頃、住んでいた立川で「米軍跡地に自衛隊基地建設」の計画に反対する運動が広がり、はじめて自分の意思でデモ行進に参加しました。「平和なまちをつくりたい」——これが丸山さんの原点です。

議員活動の原点をつくった 千葉大学生時代

大学入学後、日本共産党のポスターを眺めていると先輩から声をかけられ、学生の願いを実現していく日本民主青年同盟に加盟。すぐに日本共産党へも入党しました。



2年生になると、まわりから推され学生自治会の委員長になります。「他の執行委員とも気持ちを一致させながら、自治会全体を動かしていく仕事は大変でしたが、やりがいがあった」と振り返ります。



丸山慎一
直撃インタビュー

【好きな食べ物？】「ラーメン、カレー、すし…。なんだか典型ですね」